

厚木市の相模川
河川敷広場計画

自治会長側が「整備促進を」

住民と陳情合戦

厚木市が相模川の相模大堰わき河川敷に計画する多目的広場（広さ約1・7㌖）をめぐる、地元の両市町

田地区の自治会長4人が25日まで、広場の整備促進を求める陳情書を両市議会に出した。

役員会に諮らず提出

地元住民でつくる「相模川多自然型川づくりを推進する会」（中林竹廣会長）は、今月13日、広場計画を全面的に見直し、生物の生育環境に配慮して自然景観を創出する「オトリ」（生き物の生態空間）への実

地元住民でつくる「相模川多自然型川づくりを推進する会」（中林竹廣会長）は、今月13日、広場計画を全面的に見直し、生物の生育環境に配慮して自然景観を創出する「オトリ」（生き物の生態空間）への実

中で、広場計画に反対する陳情が出されたことは「地元自治会として極めて遺憾」と、住民4500人の署名を添えた「オトリ」事業を要望する同会の陳情を批判。「広場は世代間交流の場として絶好の場となり、反対陳情は地元自治会を悪化する」と非難している。

住民側によると、自治会長側の陳情提出は自治会役員会にも諮られなかった。今月23日、自治会の組長約30人が招集され、陳情の趣旨説明とこれに賛同する住民の署名を求められた。これに対して、組長の間から「オトリの方がいい」となると反発する意見が出され、意見がまとまらないまま、自治会長側の陳情が24日に出されたという。

この二つの陳情は来月1日から開かれる市議会で審議されるが、住民と自治会長が対立する異例の事態となり、議会だけでなく行政側にとっても難題を抱え込む格好となった。

この広場計画は当初、貸し出し制のスポーツ広場として構想された。大堰が建設される以前、この河川敷には湿性植物が茂り、希少な昆虫類なども生息して良好な河川環境が広がっていたことや、子供たちが水辺で遊ぶ池もあったことから、住民が強く反対した。

このため市側は「多目的広場」に計画を変更したが、住民側は「青少年が自然を体験することは、生命の尊厳を知り、豊かな情操と科

学的探求心を養うという点で極めて重要」と訴え、オトリづくりの陳情を出した。

【高橋 和夫】